

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1990100289		
法人名	社会福祉法人 さくら会		
事業所名	風林荘 グループホーム		
所在地	甲府市宮原町1191		
自己評価作成日	平成28年11月3日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

甲府市南部の国母公園や小瀬スポーツ公園にほど近い場所に位置し、季節ごとに公園へ出掛け、花や木々の変化を感じることができます。
グループホームとしては、利用者様の現在の機能が維持できるよう検討したケアを提供し、介護職員間での情報共有やケアの統一に努めています。
特別養護老人ホームに併設のグループホームとして平成22年4月に開所し、社会福祉法人として多機能的に介護保険事業を展開し、地域の行事への参加など地域に根ざした施設として努力を重ねています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/19/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	甲府市北新1-2-12		
訪問調査日	平成28年11月16日(水)		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は国母工業団地の近くにあり、川を挟んで道路沿いの敷地に、特別養護老人ホームとグループホームが併設されている。
2階立ての1階部分はデイサービスのフロア、2階はエレベーターを挟んで右側がショートステイのフロア、左側が1ユニットのグループホームとなっている。
利用者の居室は明るく落ち着いた雰囲気のある部屋で、共用スペースから見守りが出来る環境になっている。
職員は「できることが維持できる生活」を理念に掲げ、1人ひとりを尊重し、利用者の気持ちに寄り合いながら日々の生活に生きがいを感じることが出来る支援に努めている。
利用者は毎日の散歩や外出の機会を通じ、地域との関わりの中で心身共に落ち着いた生活が過ごすことができている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

事業所名:

風林荘グループホーム

[セル内の改行は、(Alt+Enter)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームは「できることが維持できる生活」を理念としています。その為に活動的な毎日が過ごせるように日々の活動を努力している。	理念「出来ることが維持できる生活」を職員全員で考え、毎日その日ごとに確認し目標につなげて支援している。月1回のフロアー会議に利用者の状況を見ながらその時の状態に応じて理念に沿った見直し等も検討している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	地域の行事(例:運動会、お祭り等)には積極的に参加している。参加すると地域の方々から声を掛けて貰い、一緒に過ごすなどして交流をとっている。	地域の運動会に参加し地域の人達と一緒にお弁当をたべたり、豚汁やみかんをいただいている。お祭りの時に神輿が事業所内に来てくれる。近くの保育園児が定期的に来所し交流もあり利用者には大変喜ばれている。また地区のふれあいサロンにも参加して地域のお年寄りとの交流もある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	社会福祉法人施設の中のグループホームとして地域の行事に参加している。認知症であっても出来る事があることを理解してもらっている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1回開催し、運営状況ならびに利用者様の状況や取り組みについて報告し、意見交換を行っている。会議で出された意見を参考に改善出来るようグループホームの職員会議でも議題にあげ、話し合いをするようにしている。	運営推進会議で最近入居された利用者の家族から「日々の生活はどんなふうに行っているのか」と質問があったり、外出や外食などに多くの利用者が参加出来るようにしてほしい等の要望があり、外出時は工夫して全員が行けるように努めている。会議で出た意見・要望は職員間で検討し実践につなげている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者及び計画作成者が介護支援専門員として、地域包括支援センターとの連携を図り、地域のケアマネ交流会へ参加するなど、必要時には相談支援を依頼し、協力関係を築くようにしている。	市の担当者と入居状況の報告や介護認定の更新手続き時など担当者と気軽に話すことが出来ている。最近では心身障害者の手続きの書類の書き方や、困ったときの相談に対応してもらえるような関係がつけられている。また市に運営推進会議の議事録はその都度送っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については全職員が理解している。また法人内に事故防止・身体拘束委員会があり、毎月委員会を開催しグループホームからも1名委員となっている。センサーマットや離床コールなどはベッドからの転落防止の為に使用している方もいる。	事業所の建物の一階部分はデイサービスのフロアーで現在は使用されていない為、玄関は常時施錠されているが、利用者の要望で煙草を吸う時、散歩に出るなどその時々職員が対応している。スピーチロックに関しては職員同志で注意し合える環境がある。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	利用者様に対する身体的虐待を始め、全ての虐待について介護職一同が理解し、虐待することがないように会議で取り上げ学び、意識するよう心掛けている。職員相互に介護支援を振り返り、虐待がないよう協力しながら、虐待を見逃ごさない体制作りを行っている。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ご家族から相談があるときや入所時など機会があるときに、成年後見制度について説明している。既に利用されているご家族がある。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	介護保険法に基づき、重要事項説明及び契約について理解を確認しながら説明し契約締結等を行うようにしている。説明の中で疑問点など必ず確認し、解らないことがないように努めている。改訂時には必ず契約変更について説明し同意を貰っている。また疑問点など出てきたときには即時対応するよう努めている。			

自己評価および外部評価結果

事業所名:

風林荘グループホーム

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関には面会受付場所に「苦情受付箱」を設置している。また、介護計画書説明時には希望や要望等を確認している。運営推進会議には地域の方やご家族代表の参加があり、意見要望から具体的な活動など取り組むよう努めている。	介護度が軽度の利用者が多いので、利用者自身の思いや要望などは都度要望に応じて実践している。家族からは「出来れば重度化してきた時最後まで見てもらいたい」の要望があり、今後の課題と捉えて職員間で検討している。家族が面会に来た際は情報交換を密に行い、それらを運営に反映させるよう努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設全体の運営会議が毎月2回開催され、各部署の代表が出席して意見交換をし、施設運営に反映させている。又年度末には、施設長が全ての職員と個別面談し意見要望を確認したうえで、新年度の運営に反映させている。	特別養護老人ホームに併設されている事業所なので、職員の交流・行事を一緒に行い、各部署の代表が月二回の運営会議で意見を交換して出された意見が反映されている。出席した管理者やリーダーから内容が報告され、フロアの職員間で利用者の対応の仕方や日々の行事の内容などを話し合い支援に活かしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年度末や必要時に都度職員個々と面接を行っており、一人一人の実情を理解し、意欲を持って働けるよう職場の整備に努めている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回の法人研修参加している。事業所内でも学習会を行っている。「認知症について」等の外部研修には、職員の力量を助長し、積極的に参加できるよう勤務調整も含め努力していく。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会などの研修参加の中で、同業者との交流や意見交換を通じ、認知症介護の理解を深め、サービスの向上に努めている。			
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所に現状を理解するために必ず訪問面接を行い、希望や要望、不安など確認している。入所前面接を行うことで、ご本人の様子も理解出来ているため、今までの生活の継続ができ、ご本人の不安軽減にもつながり、信頼関係も構築できやすいと感じている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の相談受付時より、現状の困り事など伺い、入所についての不安やご希望などを早い段階から確認し、希望要望に添うよう努力することで関係作りにも努めている。また、介護計画を説明する際にも意見や要望を確認し、計画に反映するよう努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者兼介護支援専門員は、以前居宅介護支援や施設で介護支援専門員を経験している経験から、広く相談に応じるよう、インテークから心掛けている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活の場であることを踏まえ、利用者様一人ひとりの機能や状態に合わせて、無理をせず出来る事の役割を依頼し、共に生活し支え合っている関係を構築できるよう介護職員が協働している。			

自己評価および外部評価結果

事業所名:

風林荘グループホーム

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の意思や要望を受け止め尊重し、利用者様の生活を一緒に考えて頂けるよう協力をお願いしている。状態の変化時にはすぐに連絡し対応するなど、信頼関係の構築にも努めている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	特に時間などの制限は設けずいつでも面会できるようにしている。ご家族はもちろん、利用者様の知人の方も面会に来られる事もある。	面会は家族、親戚が多い。時折知人、友人、元働いていた職場の仲間が面会に来てくれる。家族と自宅に帰って夏冬の衣類の交換をしたり、お墓参りに連れて行ってくれる。以前から利用している美容院や床屋へ家族がその都度対応して外出時夕食を食べて送って来てくれる利用者もいる。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様一人ひとりの個性を理解し尊重しながら、食事の席を工夫したり、レクリエーション活動や趣味活動などが一人ではなく複数人で取り組めることで、共同生活し支え合っていることが感じられるよう努めている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了時には、状況に応じサマリーや情報の提供を行い、終了後も相談に応じることを説明し支援に努めている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時には事前に意向を確認し、それ以降はケアプランの変更時や変化があるときなど確認するよう努めている。意向が確認困難なときは、ご本人の生活歴やご家族の意向とを勘案しながらご本人の意向を検討するようにしている。また、日々の生活の中で利用者様が意見を言いやすい雰囲気作りを心がけている。	入所時に生活歴を細かく聞き取り、利用者の習慣や好き嫌い等を配慮し職員間で共有した支援をしている。事業所で対応が出来ない食品は家族に差し入れなどをしてもらい、自宅での生活の継続を意識し、個々の利用者の生活を大事にしている。常に日々の行動や表情などを観察して支援に当たっている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に現状を理解するために必ず訪問面接を行い、自宅での生活の様子やサービス利用の状況など把握するようにしている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の身体的状態や機能の状況など総体的に理解するよう努め、1日の生活パターンに合わせ過ごせるよう24時間シートなど使用し情報収集するように努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の職員会議の時に利用者様の状況の変化について話し合いをし職員同士で情報を共有している。また、その情報を元にケアプランの作成・見直しをしている。ご家族にも面会時に都度日々の様子を伝えている。	入所時に仮プランを作成し、担当職員の記録を基に約一か月で本プランを作成する。その後利用者の状態に変化があればその都度アセスメントを行ない修正を行なっている。担当者会議は月一回実施して情報交換を行ない共有している。また家族に日々の様子を伝えて要望等を聞きプランに反映している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は具体的に記録するよう努め、ヒヤリハットや事故報告書なども適時活用しご本人の状態を理解すると共に、職員間で情報共有しケアの実践やケアプラン変更にも活かすよう努めている。			

自己評価および外部評価結果

事業所名:

風林荘グループホーム

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりの状況やニーズに合わせ、同法人内の他事業との交流や行事への参加をするよう努め、サービス多機能に取り組んでいる。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事への参加や施設にある畑での作業など、利用者様の心身の力を発揮して頂けるよう取り組んでいる。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族と主治医受診については確認し、受診助助やその補助を行うようにしている。普段の様子や体調について主治医に連携を取り、指示を仰ぐようにしている。	二人の利用者は家族対応で以前からのかかりつけ医の受診を行っている。その際書面にて情報提供を行ない受信後は家族から口頭で報告がある。必要時に事業所から直接主治医に確認をとる事もある。その他の利用者は囑託医の往診にて対応している。眼科、歯科、皮膚科等の受診は職員が対応している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日体調の観察及び確認を行い、同法人看護師に報告している。状態変化時には看護師と相談し、主治医への報告やご家族と相談した上で受診の介助を行っている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院受診や入院時には、連絡相談票や看護サマリーを作成し情報交換共有を行うよう努めている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在までグループホームで看取り介護は行っていない。必要に応じて同法人看護師と協力し主治医の指示を受けながら、ご家族の意向を確認した上で支援していく予定である。その為に研修参加や体制作りを継続している。	利用者は入居前に特別養護老人施設の入所予約を行っている。現在重度化した時は特養への入所の流れになっているが、利用者が体調が悪い時は特養の看護師に相談し家族に連絡して対応している。家族から看取りの要望があり、今後看取りを実施していけるようにマニュアル作りや職員が研修に参加して前向きに検討していく体制を取っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入職時や施設研修で開催される緊急時の対応へ参加し、日頃から状態変化の早期発見に努めている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	同法人他事業と連携した中で防災訓練を行っている。また、日頃から避難経路や利用者様の搬送方法など確認するよう努めている。グループホーム独自でもちょっとした避難訓練を行い、いざという時に対応できるように努めている。	法人の年2回の防災訓練にグループホームも参加し、日中・夜間を想定した訓練を行っている。グループホームでは日常生活で防災レクリエーションとして、地震の時は机の下にもぐる、火災時にはエレベーターの前に集まる等の訓練を行っている。職員の少ない夜勤帯の訓練は今後の検討課題である。	夜勤者が一人の時の対応策として幾つかの消火・通報・避難訓練を夜勤職員が体験する事が必要と思われる。その結果を記録に残し職員間で共有する事また防空頭巾や手ぬぐい、ヘルメットなどの備品の用意を期待したい。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室訪問時は必ずノックをしている。声かけなどプライバシーを損ねない対応に努めている。利用者様個々の人柄を尊重した声かけを行うようにし、職員間で情報共有するようにしている。	利用者の希望で方言の方が親しみやすいとの要望があれば方言を使っている対応もあるが、基本的には敬語で相手を尊重した言葉かけに努めている。利用者の部屋に入るときはノックをし、排泄時や入浴の介助のときプライバシーを損ねないような配慮をしている。利用者の台帳、記録等もしっかり管理されている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名:

風林荘グループホーム

[セル内の改行は、(Alt+Enter)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が希望や意向を表現できる雰囲気や環境をつくるよう努め、日々の行動や活動なども個々に選択して頂けるよう配慮している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の生活リズムに合わせて、日々の行動や活動なども介護職側の都合ではなく、選択していただき、希望に添って生活できるよう支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類や身の回りの物は、利用者様やご家族に準備して置き、毎日の身だしなみもご本人の希望に添って支援している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの嗜好に合った物を準備しており、食事やおやつなどの準備や片付けも利用者様の機能にあった内容で一緒に行い、共にテーブルで食事している。	主な食事は特養の厨房から届き、グループホームではご飯を炊いた支援を行っている。時には畑で採れた大根で煮物をしたり、葉っぱでふりかけを作ったりして懐かしく食べている。また、細からりんごを取っておやつ作りをしている。食後の後片付けやおしぼりたたみ等利用者本人の力生かした支援に取り組んでいる。職員も同じテーブルを囲んで食事を楽しんでいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養量が計算された食事の提供とそれ以外にもバランスを考え提供し、食事摂取量や水分摂取量と合わせ排泄状態も確認している。体重測定も月1回行い、身体状態と合わせ主治医や看護師と連携を取りながら支援している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後居室での口腔ケアを誘導、声かけを行っている。状態によっては口腔ケアを介助させて置き、必要時歯科受診の支援を行っている。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ほぼ全員の方がトイレで排泄されている。また誘導が必要な利用者様には一人ひとりにあった声かけを行い羞恥心に配慮しながらトイレ誘導を行っている。パットを使用している利用者様もいるので清潔保持にも留意している。	現在、排泄はほぼ全員がトイレで排泄を行なっているが、排泄表を付けてそれぞれの排泄パターンに応じたトイレ誘導を行なっている。夜間はポータブルトイレを使っている利用者が2名、布パンツでは夜間心配との希望でパットやリハビリパンツを使用している利用者もいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	定期的な排便ができるよう、食事や水分摂取に加え、朝の牛乳摂取や歩行による運動を取り入れ、トイレでの排便がスムーズにできるよう支援している。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様に入浴の声かけをし入浴時間を決めてもらうようにしている。また、ご本人が入浴準備できない場合は職員と一緒に衣服の好みなどを聞くようにしている。全員の方が週2回以上入浴できるよう努めている。	入浴は毎日用意して利用者の希望で入浴を行なっている。基本的に週2回入浴としているが、援助なしで入浴出来る利用者3名はゆっくり入浴を楽しんでいる。一部介助、見守り声掛けの対応は6名おり、好みのシャンプーやボディソープ、入浴剤などを使って入浴を楽しんでいる。		

自己評価および外部評価結果

事業所名:

風林荘グループホーム

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心して眠れるよう居室内の環境作りを工夫したり、生活パターンにあった就寝時間で介護職側の都合で促すことのないよう支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	同法人看護師が管理しており、毎日の内服薬をセットし、内服が確実にできるよう介護職が見守りや介助を行っている。看護師はもちろんだが介護職も誰がどの様な内服をしているのか、変更の有無なども理解し支援している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の機能や力に添った役割を依頼したことで、帰宅願望の軽減や不穏の軽減につながっている。嗜好品はご本人の希望に添って食事やお茶の時に提供できるよう準備している。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には荘の庭に出て気分転換や日光浴をしている。希望があれば一緒に買い物に行っている。また、ご家族に相談しながら季節ごとに外出レクを行うようにし、外に出て季節を感じて頂ける様に支援している。	施設の畑に苗ものを植えに行く、草取をしたり収穫した野菜でサラダを作る、おやつ作りをするなど楽しんでいる。天気の良い日には気分転換で近くの公園に散歩に行く。希望があれば買い物に同伴してスーパーにも行っている。時には車を使ってお花見や紅葉をみに行く支援をしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の状況によって所持も可能ではあるが、ご本人の管理能力に合わせ対応するようにしている。日常の買い物は、預かり金からできるようにしており、制限などはないが、ご家族に確認して買い物するようにしている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には電話の取り次ぎや手紙の投函支援を行っている。ご家族や知人からの電話もあり、取り次いでいる。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	個室とは違い、明るく各季節が感じられるように花や飾りつけを介護職が中心に工夫している。都度確認できるよう温湿度計を置き、適温湿度に心掛けている。	フロアーの壁には利用者が制作したちぎり絵で「笑顔は和をつくる和は福をよぶ俵をまねく」と書が添えられた作品が飾られ華やかな雰囲気を感じることが出来る。窓からは明るい光が入り、台所では対面式で盛り付ける際の音・匂いを感じる。浴室も近くに設置されて風呂上がりの利用者が顔を拭きながら出てくる姿は生活感を感じる。共有空間は職員が目届く範囲で常に見守り声掛けが出来る環境となっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同のスペースとしてくつろげるようテレビやソファ、テーブルや椅子など利用者様各人に合わせ配置し、一人になれる場所もあり、自由に過ごせるよう支援している。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはなじみの物や好みの物などを置いてもらい、落ち着いて居室で過ごせるようご家族に協力してもらっている。また、ご本人の動線なども考え配置し、危険がないよう配慮している。	居室は落ち着いた部屋でベット、草笥、洗面所、カーテンは事業所でセッティングされている。利用者は自分の好みでテレビや机、椅子などを置き、仏壇を持っている利用者、自宅で飼っていた犬の写真や、陶芸教室で作った陶器の置物の作品が飾られている。自室の机の上で小説を読んでいる利用者、本人が落ち着いて過ごせる工夫がされている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の場所やトイレの場所など、利用者様一人ひとりにわかるよう工夫し、使用してもらえよう努めている。			